

自立をしたい

講座 8「自立について語ろう」

演習 8「自立を支える3つの場と自分マップづくり」

講師 広島市立広島特別支援学校 草羽俊之

1 「学んでほしいこと」

講座8では、「自立について」一人一人が自分の考えや思いを出し合って、「自分にとって、自立とはなんだろう」ということをテーマに話し合います。いきなりでは、難しいテーマなので、久保正道さんの「自立について」のお話を聞か、あるいは読み聞かせで、久保さんの話の中から大切なポイントを4つ取り出します。そしてポイントに沿って、これまでの自分の生き方を振り返ってみます。

次に、生活を支える場としての「暮らしの場」「働く場」「余暇活動と学びの場」について考えます。この3つの場は、人が生きていく上で人生を豊かにする場としてあることを学びます。

そして、「今の自分マップ」と「未来の自分マップ」の作成を通して、自分の生活に「暮らしの3つの場」がどのように存在をしているのか考えてみます。

最後に、夢や希望を語り合うことで、お互いの自立への願いや思いの交流をします。そして、ほかの人の生き方を知ることで自分の生き方を考える機会にしてほしいと思います。

2 『学びのポイント』

- (1) 自立を考える4つのポイント、「自分のことは自分で決めていますか」「決めるときに、相談をできる人がいますか」「自分一人で、できないときに助けてくれる人がいますか」「自立に向けて、学びたいことはなんですか」に沿って振り返ります。
- (2) 自立を支える暮らしの3つの場の大切さについて知ります。
- (3) 3つの場が豊かになるために、生涯学習講座で学んだことを生かすことを学びます。
- (4) 「今の自分マップ」と「未来の自分マップ」を作成して、自分の願いや希望する未来の自分の姿を発表します。

3 『支援のポイントとテキストの活用方法』(SP=Support Pointo)

講座 I

《SP1》支援者の配置

4～5人くらいで構成をしたグループに1名ずつの支援者を配置して、30分間の話し合いをします。そして、集団内で「進行係」やグループの「発表係」「タイムキーパー」「記録係」などを決めます。次に、それぞれの役割の内容や必要なことを伝えます。記録係は、支援者が行っても構いません。

《SP2》久保さんの話（支援者や参加者が朗読をしても、OKです。）

久保さんの話の中で、この後の話し合いの大切な柱になる「自立を考える4つのポイント」があることを予め伝えておきます。そして、大切だと思うことを記録したり、アンダーライン（マーキング含む）を引いたりすることを勧めます。途中で分からない言葉や意味があれば、そのときに「質問」と手を挙げて言ってもらいます。

《SP3》「自立を考える4つのポイント」の振り返り

グループごとで4つのポイントを、各自が振り返ってみます。テキストの1の(1)～(4)までのポイントについて、各自が4つのポイントについてテキストに記入をして発表します。そして、進行係が質問や意見をメンバーに聞きます。考えても、出てこなければ無理に出す必要はありません。

また、タイムキーパーは時々、経過時間をメンバーに伝えます。

《SP4》発表を通して学び合います

最後に、グループ内で発表係の人が、記録のまとめを読みながら報告します。まとめは、(1)～(4)までの項目で出た内容を発表します。

演習 I

《SP1》「暮らしの3つの場」の説明をします。

自立を考えるときに「暮らしを支える3つの場」が、自立に向けて大切であることを、自立生活のイメージ図「暮らしを支える3つ場」を見て説明します。説明の内容は2で解説をしています。

3つの場は意義と大切さ、内容の中身を考えることが重要です。それぞれの場で「誰と」「どのような内容」により展開されているかが、その人の「生活の質」にかかわってくることを留意しておきます。

《SP2》マップ作りはありのままの自分を出します。

「今の自分マップ」は、現在の自分の環境についてありのままを書きます。

「未来の自分マップ」は、今の生活の場から、どのような生活をしていきたいか。夢や希望に関する自分の思いを素直に出してもらおうことが大切です。

《SP3》

それぞれの自分の未来図について、説明ができるようにコメントを考えましょう。そして、自分マップの発表を通して、夢や希望を語り合うことが、自己実現に向けて励みになっていくことを期待します。

仮に、発表をしたくない人がいた場合は、聞くだけの参加も OK です。

自立についてのテーマで学び合いをしたり、話し合ったりしても答えが出るものではありません。自立とは「なりゆく自分」と河野勝行さんが言われています。つまり周囲に決められた目標に向かっていくのではなく、自分の夢や目標に向かっていく主体的な行動や思いが大切であると思います。そして、そのことを支える社会と、周囲の人との関係の結びつきも重要になります。

以上のことを伝えるための話し合いや、マップ作りであると考えて進めてください。

4 『資料の紹介』

- ① 加藤直樹(1997)「障害者の自立と発達保障」全障研出版部
- ② 大泉溥(1987)生活の主人公になる、「生活と人格発達」人間発達研究所全障研出版部
- ③ オープンカレッジ東京運営委員会(2010)「知的障害者の生涯学習支援」社会福祉法人東京都社会福祉協議会
- ④ 松矢勝宏 監修 編著者 養護学校進路指導研究会(2004)「大学で学ぶ知的障害者」大揚社
- ⑤ 國本真吾『障害者社会教育の現状と課題』～主体形成の社会教育論の視点から～(2002) SNE ジャーナル第8巻第1号(p118~p130)
- ⑥ 渡部昭男(2009)「障がい青年の自分づくり」株式会社日本標準
- ⑦ 河野勝行(1990)「障害児者のいのち・発達・自立」文理閣

5 『講師の感想』

「自立」という言葉は、人によってさまざまなとらえ方があります。私は、その人が、将来への夢や希望に向かっていこうとする本人の過程が大切だと思っています。また、その過程づくりに本人の参加が重要だと思っています。この講座では、「一人暮らしをしたい」「転職をしたい」「異性の友達がほしい」「友達と遊ぶ場がほしい」など、生活に根付いた具体的な欲求が出されました。決して実現しにくい夢のような話ではないと思いますが、知的障害者の暮らしは、まだまだ支援と環境が整っていないために、あきらめている現実があるのではないのでしょうか。

学びの場を通して、本人達が夢や希望に向かって、実現できるような実践が大切だと思っています。そういった意味でも、生涯学習は豊かに生きるための支援の一つとも言えるのではないのでしょうか。